

血液培養より分離された *Moraxella atlantae* による菌血症の 1 症例

©加藤 翔也¹⁾、三浦 美香¹⁾、堀尾 瑠奈¹⁾、佐藤 未侑¹⁾、和田 直樹¹⁾
医療法人 徳洲会 札幌徳洲会病院¹⁾

【はじめに】*Moraxella atlantae* (*M. atlantae*) はグラム陰性球桿菌でヒトの眼内炎や菌血症として日和見感染症の原因と報告されているが、国内外の症例が少ない菌種である。今回我々は、血液培養より *M. atlantae* による菌血症の症例を経験したので報告する。

【症例】90 代男性、29.9°C の低体温とショックバイタルを認め、当院に救急搬送。CT 所見より大動脈解離を併発し、フォーカス不明の敗血症性ショックと診断され、治療目的で ICU に入院。血液培養採取後、CTR_X の投与が開始された。入院翌日に血液培養陽性化した。入院 4 日目に AMPC/CVA が追加され、経過良好で入院 48 日目に転院となった。

【身体所見】BT29.9°C(直腸温),BP60/34mmHg,HR124/min,SpO₂ 99%

【検査所見】WBC12400/ μ L,CRP10.19mg/dL,PCT0.572ng/mL,CPK405U/L,CK-MB15.6ng/mL,TnI284pg/mL

【微生物学的検査】入院時に血液培養 2 セット、喀痰培養、尿培養を採取し、翌日好気ボトル 1 本からグラム陰性球桿

菌が検出された。Film Array BCID パネルによる同定では検出されなかった。5%CO₂ 培養の羊血液寒天/チョコレート寒天分画培地で 24 時間培養後、0.5mm の扁平で周囲に広がったコロニーが発育した。このコロニーを MALDI-TOF MS では Score Value 1.63 と C 判定で *M. atlantae* であったが not reliable identification と信頼性の低い結果となった。また、ID テスト・HN-20 ラピッド「ニッスイ」を使用し、>99%の確率で *M. atlantae* であり、16S rRNA 塩基配列解析が 98.7%の相同性を示したことから本菌種と同定した。

【考察】本症例は、質量分析装置によるスコアと 16S rRNA の相同性に加え、同定キットなどの生化学性状による同定が有用と考えられた。また、本菌は薬剤感受性の判定基準がなく、文献にて使用されていた AMPC/CVA(MIC =0.5)に変更し治療に用いたが、様々な抗菌薬に感受性良好の結果となったため、初期に投与した CTR_X(MIC =2)も有効であったと考えられる。なお、本菌同定の際に遺伝子解析をしていただいた、東京医科大学微生物学講座 大楠清文教授に深謝いたします。連絡先:011-890-1610